

蒲生干潟の植物③④

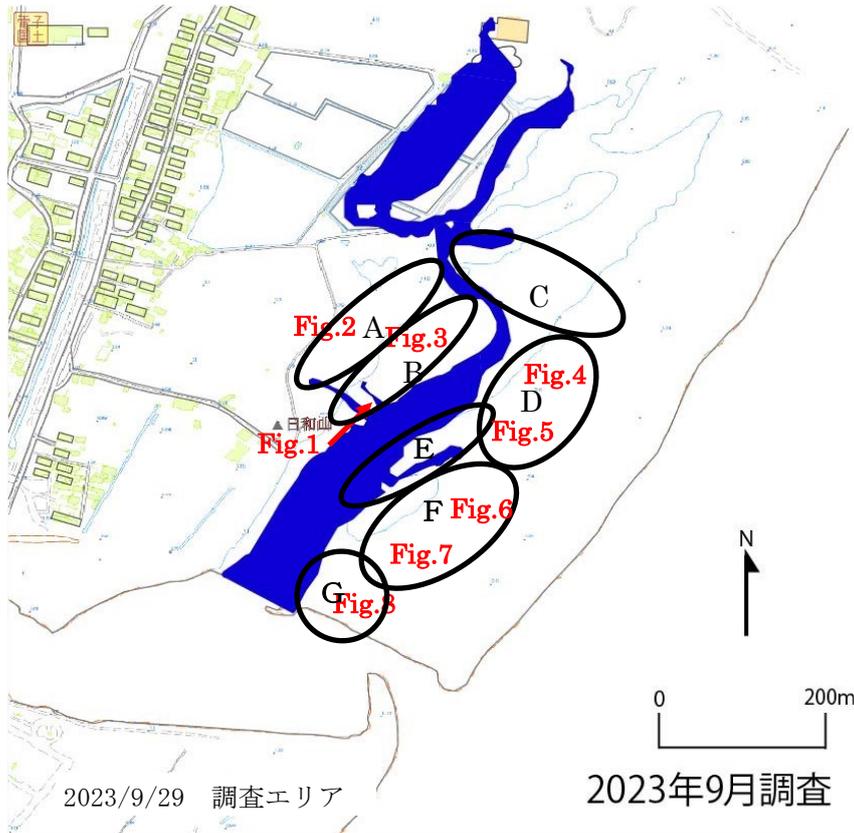


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影

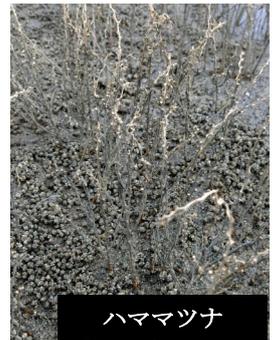


Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアDで撮影



Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2023年10月29日（日）13:30～15:00，天気：くもり

満潮前で非常に水量が多かった。定点観測では、一面すっかり茶色になっていた (Fig.1)。エリアAのヨシは、穂に毛がついており風に飛ばされるのを待つばかりとなっていた (Fig.2)。エリアBのハママツナは、ほとんどがすっかり枯れてしまっていた (Fig.3)。エリアDに点在するハマニンニクは、若い新しい葉が出ており周りが茶色くなっているため逆に良く映えていた (Fig.4)。また、ハマニガナの花は、大分少なくなり、葉も黄色く色づき始めていた (Fig.5)。エリアFでは、ウンランの花が確認できた。群生しているものの、花の多くがしおれており、花がきちんと確認できた個体はあまり多くなかった。例年よりも開花時期が短いと思われる (Fig.6)。また、数は少ないが、コマツヨイグサの花もまだ見ることができた。しおれているのも多く、そろそろ見納めと思われる (Fig.7)。エリアGでは、セイタカアワダチソウが2個体確認できた。対岸では、防潮堤に沿って群生しているが、干潟の東側では今まで確認されていなかった。今年は蒲生周辺でセイタカアワダチソウがかなり多く見られるので、今後ますます増えることが予想される。海浜植物に影響が出ないことを願いたい (Fig.8)。

(宮崎佳彦)